

きかんしゃトーマス 展

ソドー島の なかまたちが 教えてくれたこと

3組4人の画家による“こだわりの挿絵”

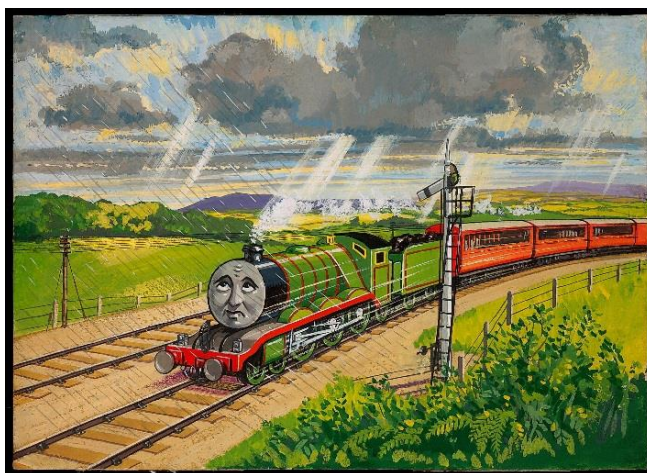
C・レジナルド・ダルビー

色鮮やかで親しみやすいタッチ

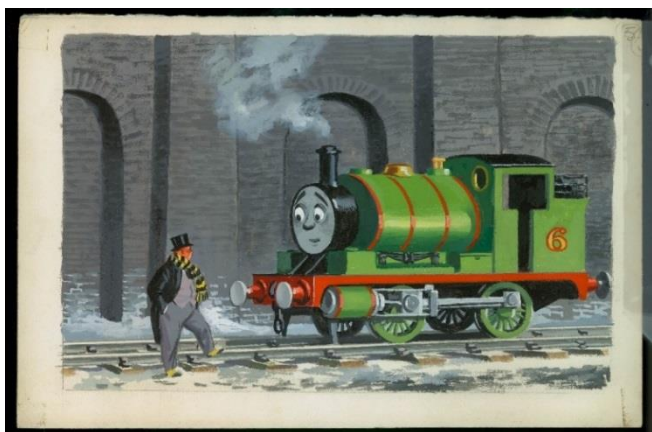
実際に 1830 年頃イギリスの蒸気機関車も とてもカラフルでした。



C・レジナルド・ダルビー 『トーマスとゴードン』



C・レジナルド・ダルビー 『なさけないヘンリー』

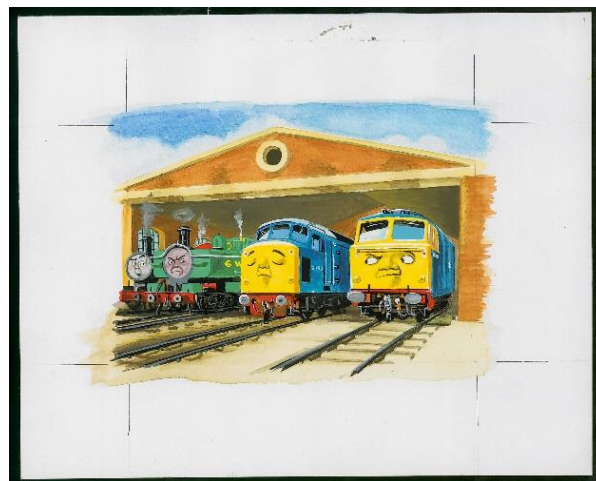


ジョン・T・ケニー 『みんなのだいひょう』

ジョン・T・ケニー

より写実的なタッチ

本物を伝えたいオードリー牧師の希望で
よりリアルな描写になりました。



ガンバー&ピーター・エドワーズ夫妻 『ヘンリーの大かつやく』

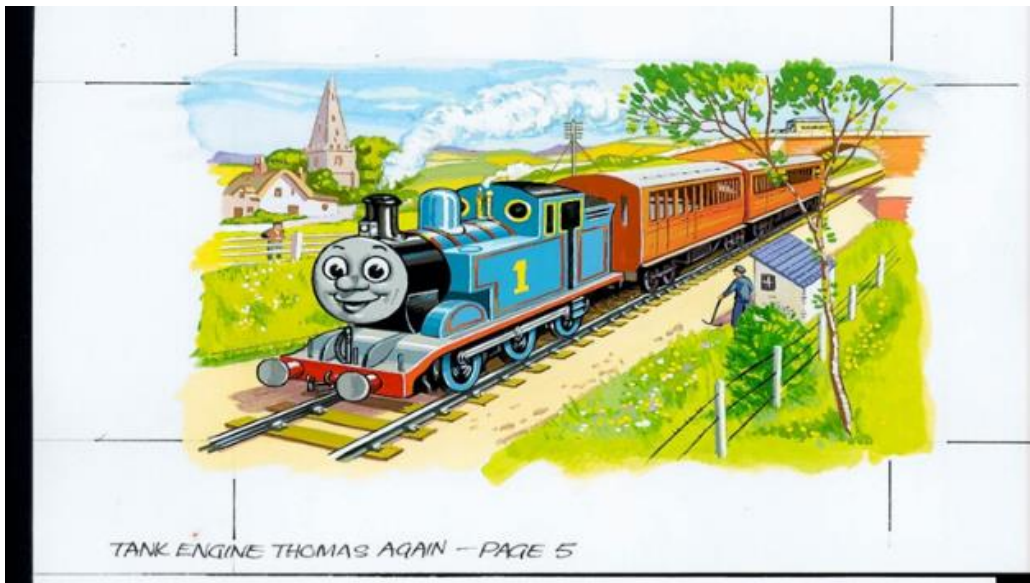
ガンバー&ピーター・エドワーズ夫妻 キャラクターたちの豊かな表情が特徴

くるくる表情のかわる機関車たちに苦心した
妻ガンバーが夫ピーターにお願いして、2人で
挿絵を描くようになりました。



オードリー牧師が
子どもたちに伝えたい
変わらないこと

| | |
|------------|-----------------------|
| ‘自分’ と向き合う | 正直さ、誠実さ、努力 |
| ‘仲間’ と向き合う | 思いやりをもちよう 仲間を理解しよう |
| ‘仕事’ と向き合う | 協力しよう 使命感をもちよう |



©・レジナルド・ダルビー『トーマスと車しよう』

オードリー牧師は「保存鉄道」活動へ尽力

1950年頃、鉄道の近代化により蒸気機関車が姿を消しはじめます。オードリー牧師は大好きな蒸気機関車を守りたいと、鉄道保存協会のメンバーとなり保存活動に尽力し、世界初の「保存鉄道」となったタリスリン鉄道の保存活動にも関わりました。タリスリン鉄道は「小さなふるいふたごの機関車」のお話の中でも登場します。

イギリスを代表する児童文学作家

オードリー牧師の文章は、少ない語数で表すために推敲され完成しています。また独特な擬音語、文章の反復、母国なまりの英語を話す機関車など、楽しく臨場感あふれ、物語に引き込まれる文章になっています。